

平成十八年度「花のまわりみち」

定本 広文 選

入選句（天地人・秀逸）

「天位」

抱いた子の笑顔を誘う花手毬

酒井 厚

（評）連れて出るのに、抱き上げるぐらいの幼い子。中七の親子に笑顔が出る会話。花を目にしながらのムードが溢れた良い句だ。

「地位」

関山のピンクに負けぬ子の頬っぺ

川上 博子

（評）花のまわりみちに、また注目の花が増えた。期待と次年度からの主役とする句が多い中で、子供の輝きと対比させて成功した。

「人位」

関山を背に真ん中をゆずり合い

高田 和夫

（評）見方によっては、こんなほほ笑ましい句になる。花を生かすと共に、人を生かす。真ん中の場所をゆずり合うのはいい仲間だ。

「秀逸」(五句)

妖艶に咲く関山の花の毬

井上 イツコ

すばらしい八重の花びら目に刻む

高橋 清隆

関山が今年の主役咲きほこる

松井 哲夫

花巡り関山締める八重の里

岩崎 史子

まわり道雨もまたよし花粉症

川平 厚

佳作

(二十五句)

新品種かおる桜へご挨拶

外間 正枝

関山の枠に誘われ回り道

大河 遊歩

佇んで桜見渡す今日の贅

沖原 純子

最終日関山と逢う花吹雪

松岡 登代子

途中下車して関山に会いに来る

五郎丸 千代子

濃淡をつけて大空さくら色

岡村 明美

関山は蕾のままでご愛想

柿本 正廣

こつ行けば昭和へ戻る花のみち

大野 順子

紅大輪咲かせ今年の花の意地

小川 博

いつも同じ衣裳で桜主役です

楠山 としこ

巡る春花は関山程の善さ

松前 道英

車椅子電動となり花めぐり

谷口 敬誠

関山はまだ蕾なり無表情

吉川 徳子

夜桜で見物しつつ福祿寿

沖田 京子

ぼんぼりにほほ染めている花の毬

北村 恵

春風に淡く濃く散るまわりみち

白崎 静子

手のひらに落ちた桜が軽すぎる

山本 達也

八重桜驚くばかり花の数

森 美枝

関山は今年の花と二度三度

山根 ナツエ

春風と楊貴妃桜身を委ね

大古 加代子

咲くも好し散るも風情の桜道

田村 八重子

福祿寿酒に浮かべて福を呼ぶ

木山 均

カメラ手にはぐれて花のまわり道

梶本 操

つかめない桜の夢を追いかけて

丸本 理紗

夜の空白くうかんだ花のまり

山根 圭太

選者吟

新顔が増え活気づくまわり道

定本
広文